

紫の習字教室の帰り。ラジオから「トイレ様」という曲が流れた。自宅に着いたが、なかなか車のエンジンを止まらなかった。曲に入ってしまった。娘も黙って聴いていた。ドアを開けようともない。まるでドラマを演じているかのよう。静かに返って聴いた。

「トイレを掃除する将来、かわいい女の授かるよ」と、母が授けてくれた。「本当はあんなの思い出さなかった曲らしい。テレビ放送で「トイレの神を聴いて、また涙し娘も黙って聴いてみただり歳の娘。でも、そろそろトイレ掃除を任せようかと思ふ。将来、あなたのようなかわいい女の子を授かるように…」

短 信

演会「天覧標本と熊本の熊本大工学部百周年記念本大五高記念館で開かれ企画展「昭和六年の天覧に合わせ、熊本記念植物の今江正知名誉会長が講師。無料。県文化企画課博覧ロジエクト班096(3)2155。州大公開講座「九州山地知る」29、30日の1宮崎県椎葉村の同大習林。講義と実習で丸林や動物の特徴、地球おける森林の役割などに学ぶ。高校生以上。定程度(初参加を優先)。4千円(宿泊料、食事代、など)。14日締め切り。林096(38)1111

科 学

石垣島 イグアナ野生化

中南米原産の大型のトカゲのグリーンイグアナが、沖縄県・石垣島で野生化している。もともとはペットだったとみられ、餌として食べている昆虫や植物の生態に影響を与える恐れがあると、環境省が調査や駆除を進めている。環境省の石垣自然保護官事務所によると、グリーンイグアナは本来、中南米の熱帯雨林の川付近、木の上などに生息。大きなものは尾の先まで約2メートルになる。石垣島での目撃は15、20年ほど前から。グリーンイグアナは国内でペットとして大量に流通しており、石垣島で今年1月に捕獲された大き



石垣島で今年1月に捕獲された大き約160センチのグリーンイグアナ(環境省石垣自然保護官事務所提供)

漢方に「科学的根拠」を

全 国 10施設 症状、投薬などデータ解析へ

2千年以上の歴史をもつとされる漢方。西洋医学に東洋医学を加えた「統合医療」の可能性を探る厚生労働省のチームが発足し、あらためて注目が集まる。漢方活用に関する厚生労働省研究班(班長・墨石祐治国際医療福祉大学教授)は2月、経験の蓄積から科学的根拠に基づく医療への転換を図るべきだとの提言を発表。漢方医の「匠の技」の正体を明らかにする試みが始まっている。

厚労省 西洋医学との「統合」研究 チーム

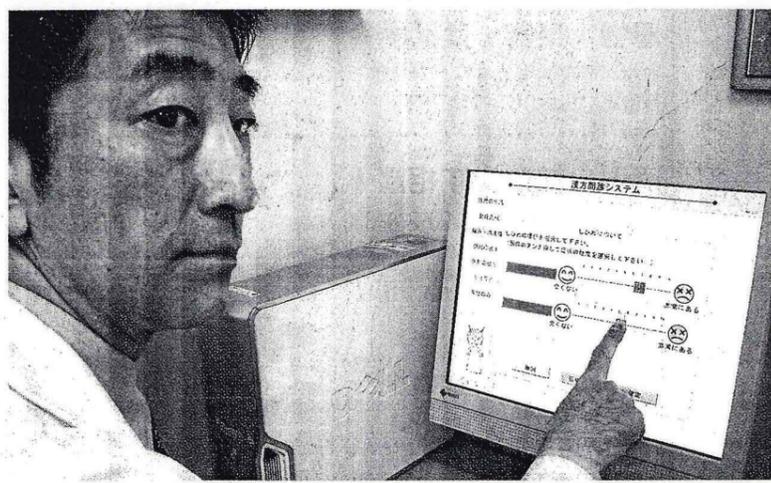
東京都新宿区の慶応大 病院。渡辺賢治漢方医学 センター長に促されて問診用端末に向かい合う。モニターに質問が表示された。食や睡眠などの生活習慣に加え、冷え、しびれなどの症状を部位ごとに聞かれ、その主観的な強度を0〜100の数値で入力していく。似た患者と比較 約200の問診情報に 医師が下した診断や漢方製剤の処方などを加え、個人が特定される情報を除いた1千項目以上のデータを1人分として、これまでのべ5千人分以上のデータが蓄積されてきた。「漢方は、患者の体質などに合わせて治療法を調整する個別化医療だ」と渡辺センター長は解説する。目の前の患者を、体質や生活環境などが似た過去の患者たちと比較しながら、見立てと治療法を選択する。こんな方法をコンピュータで再構成するには、まず症状、診断、治療をくまなくデータ化する。これが求められる。数式に乗せる

こうして集めたデータの解析を担うのは、東京大医科学研究所DNA情報解析分野の宮野悟教授、井元准教授らだ。まず取り組んだのは、初診の患者が、慶大病院式の漢方で症状が改善する確率の計算。確率が高ければ治療に入り、低ければ別の方法がないか模索するなど、治療方針決定の一助になることが期待されている。

「足の冷え」を例にとれば、120近い問診項目から、冷えと関係が深い35項目を数学的な方法で選抜。これらの項目について対象の患者と回答

傾向が似た別の患者の治療記録を比較し、改善が見込めるか判断する。ここで治療効果が期待できるとされた人の91%が、実際に3カ月後の症状改善がみられたという。問診データから診断をつける試みも行った。漢方医学では体質や症状を総合して「証」という診断をつけるが、線が細い「虚証」と体格のいい「実証」を計算で判別すると、実際に医師がつけた判断と87%一致。医師の診断支援につながるかもしれない。井元准教授は「漢方医学が数式に乗せられることが証明できた」と手応えを語っている。

規模拡大へ 慶大病院単独で行っていたこの研究は本年度から、全国10施設に拡大する。より多くのデータを集めれば予測の精度アップが見込めるためだ。患者によるシステム活用も視野に入れている。渡辺センター長は「現在も自身の治療経過を来院時に確認することはできるが、将来的には携帯端末から自分に合った治療を探せるような仕組みにしていければ」と話している。



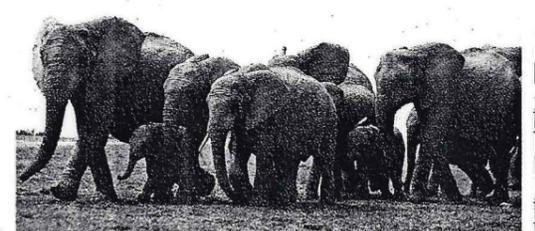
慶応大病院に設置された漢方問診システムを操作する渡辺賢治漢方医学センター長=東京都新宿区

象牙で乱獲、アフリカゾウ

巨大動物の今④

巨大な牙と耳。大きな雄では肩までの高さが4メートル、体重6.3トンにもなる最大の陸上動物がアフリカゾウだ。サハラ砂漠以南のアフリカに広く分布する。1970〜80年代に象牙目当ての狩猟で多くのアフリカゾウが殺され、世界自然保護基金(WWF)によると、20世紀初頭には1千万頭もいたアフリカゾウは現在は48万頭にまで激減。人間に追われる野生動物の象徴的存在となった。ブルンジなどのようにゾウがいなくなってしまう国もある。激しい議論の末、ワシントン条約の加盟国は1989年にアフリカゾウの国際取引を禁止、生息国の多くで保護区が設立されるなどして、個体数は増加傾向にある。

遊 歩 道



南アフリカの国立公園のアフリカゾウの群れ(ロイター=共同) 〓この項終り